



ぽっかぽか



アリやダンゴムシを見かけると、「みてみて～！」とお友だちや大人を呼ぶ子どもたち。徐々に気温が高くなっていろんな生き物が活動し始め、虫が大好きな子どもたちにとっては嬉しい季節になりました。梅雨に入ると戸外遊びが減ってしまうので、今のうちに気持ちのよい初夏の自然に触れたいと思います。



今回は子どもの「にぎり」についてお話したいと思います。皆さんはお子さんと一緒に過ごしているときにお子さんの手の動きを観察したことはありますか？「指は開いているか、開いていないか」「添えられた手に力が入っているか、入っていないか」「手首は安定しているか」などなど…。実際にご家庭で意識されることは少ないのではないかと思います。手の発達や使い方は、将来つまり幼児、児童になった時に道具の操作や運動に大きくかかわります。クラスではひとりひとりを観察し、どんな活動がその子の発達をより促せるかを考え、それを遊びに取り入れて楽しんでいきます（←ココ！大事です！）

【ボール】手のにぎりに注目して、片手で握れるサイズを使用しています。的あてにしたり、大人と投げ合ったりして楽しんでいます。手のにぎりはもちろん必要ですが、投げるにはフォームが大切なので体全体を使います。何度も投げることで投げ方、フォームも洗練されてきます。つまり身体の動かし方が上手になっていくのです。投げるときに両足でぴよこん！とジャンプしてしまうMちゃんも徐々に足が浮かないで投げるようになってきました！すごい！

【鉄棒（ぶら下がり）】鉄棒の太さに対し手の大きさが十分であれば、親指を他の指とは離して握るようにします。それにより親指に力を入れることができます。親指は実はとっても大切！親指に力を入れることで腕や肩の発達を促し、操作性も上がります。なにより鉄棒にぶら下がるという単純なことでも子どもたちが「出来た！」と達成感を得ることが出来ます。あまり鉄棒に興味がなかったA君。ぶら下がりも「みて！」を大喜びですが、それだけではなく、Yちゃんの豚の丸焼きを見てからは、その技に絶賛挑戦中です！がんばれ～！

